

基督教問答

020516-000-5

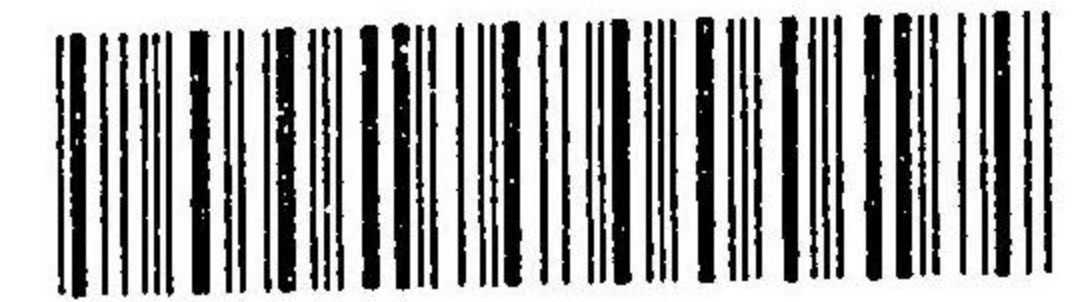
特53-484

基督教問答

堀田 達治 / 著

M32

ABI-0329



4

六丁

1471

168
416

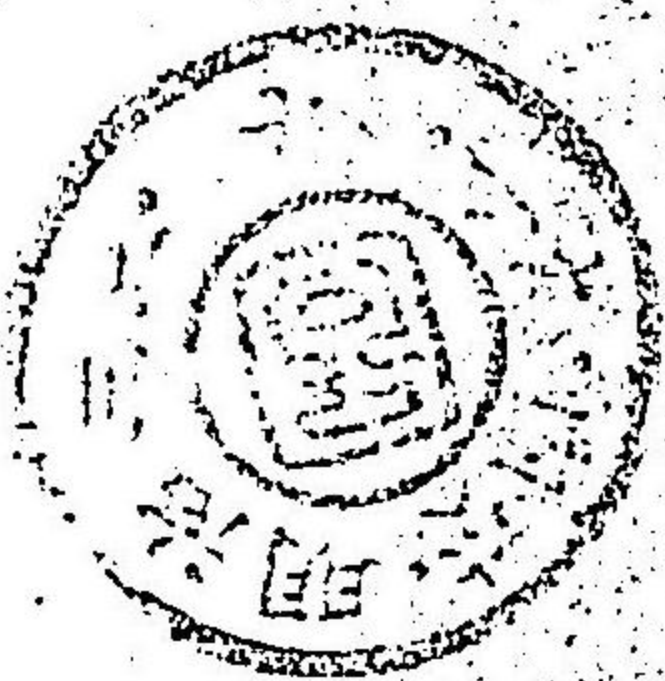
THE FREE CHURCH CATECHIS

耶穌降生二千八百九十九年

基督教問答

東京 教文館

基督教問答



第一問

基督教とは何ぞや。

答

神と無窮なる生命とにつぎ圓滿ある智識を傳へられし
我らの主、救者耶穌基督の創定せられたる宗教なり。

第二問

神につぎては如何に考ふべきや。

答

神は獨一の永在無窮なる靈にして、萬物の創造者保持者あり。神は愛なり。智と能力限りなく、聖善と公義、及び矜恤と眞實に於て完全なり。

第三問

耶穌は神を呼ぶに如何ある名を以てすべしと教へられ

しや。

答 天に在す我らの父。

第四問 この父てふ名より如何なるとを學ぶや。

答 神自らの肖像に型りて我らを造り、その賢を攝理を以て我らを守り、地上の父母にまさりて我らを愛するとを學ぶ。

第五問 耶穌己がとを何と言はれしや。

答 彼は父が我らを罪惡より救はしめんため、其の大いなる愛に由りて世に遣はせし神の子なりと。

第六問 罪とは何ぞや。

答 罪とは神の聖なる律法を犯し、若しくは其の要求するところを欠きたる思想若しくは感情、言語若しくは行為あり。

第七問 神の律法の要求するところを簡單に陳べよ。

答 全心を盡して神を愛し、己の如く隣人を愛すべしとあり。

第八問 我らは自らの力にて之を行ふとを得べきや。

答 然らず。何とあれば人は最初罪なきものに造られしかど其の後悖逆に陥りてよりこのかた、一人も自らの力にて神の律法を守り得るものなければなり。

第九問

罪惡の結果は何ぞや。

四

答

罪惡は人を神より離れしめ、其の性を腐らせ、之をさまざまの苦痛と歎きとにかゝらしむ。而して悔ひ改むるにあらざれば必らず無窮ある死を來すべし。

第十問

我らは罪惡と其の結果より自ら救ふとを得るや。

答

否その途なし。我らは己が心を清むるとも、罪過を改め繕ふともなしがたきなり。

第十一問

神の子は如何にして其の民を罪惡より救はれしや。

答

我らの救のために彼は天より降り、聖靈によりて受肉し處女マリアより生れて人とあり、ポンテオ、ピラト

第十二問

の時我らの爲に十字架にかけられたり。彼は苦難を受けて葬られ、聖書に言へることく第三日に再び起ちて甦り、天に昇りて神の右方に坐せり。

答

神の子人とされるにより何の利益を得るや。
我らは之によりて神と人との中保者を得たり。即ち神としては、我らに神の何たるを教へ、完全なる人としては、人類を神の前に代表するものはあり。

第十三問

地上に於ける我らの主の生活より、このほか如何なる利益を受くるや。

答

我らの弱さに對して同情厚き兄弟たる人、並びに我ら

の完全なる理想の實現を耶穌基督に於て獲。

第十四 問 耶穌はその十字架上の死によりて我らのために何を成就せられしや。

答 神のまへに自らと疵なき供物となして、神に捧げられしにより、彼は神の聖徳の要求するところを遂げ、すべて我らの罪惡を贖ひ、且つ罪惡の力を挫きたり。

第十五 問 基督の復活は何を教ゆるや。

答 我らの贖ひの業を果されしこと、死の權の廢滅に歸せしと及び其の活くるによりて、我らも亦活くべきことを確實にす。

第十六 問 彼の昇天より何を學ぶや。

答 基督が父の前に我らの辨護者となり、我らのため執り成しの祈をなさんとして恒に活るものなるを學ぶなり。

第十七 問 基督神の右方に坐すといふより何を學ぶや。

答 基督は我らの首、又我らの王として崇められ、天地の權威ごとく之に與へられたるを學ぶ。

第十八 問 耶穌基督は如何にして今なほその救ひの業を繼續せらるるや。

答 祝謝せらるる三一の第三者、即ちペンテコステの日遣はされし聖靈によりてなり。

第十九 問

祝謝せらるる聖三一の秘義は何ぞや。

八

答 我らがその名に於てバプテスマを受けたる父、子、及び聖靈は一の神ありと謂ふ是なり。

第二十 問

我ら救はれんために何をなすべきや。

答 罪惡を悔ひ改めて主耶穌基督を信すべし。

第二一 問

悔ひ改むるとは何ぞや。

答 眞實にその罪惡を悔ひ改むるものは、慚愧と悲嘆とを以て之を告白するのみならず、先づ第一に罪惡を赦されんとを眞心より望み、自今罪惡を犯すまじとの志を堅固にし、之を去りて神に歸順するとあり。

第二二 問

主耶穌基督を信ずるとは何ぞや。

答 我ら耶穌によりて神の恩寵に全部の信任を置き、我らの師、救者、又主として之に依り頼むをいふなり。

第二三 問

我ら如何にして悔ひ改たむるを得、又信ずるとを得るや。

答 我らの心のうちに恩寵深く活動し、此の目的を以て攝理の訓練と、福音の使命を運用する聖靈の隠れたる力による。

第二四 問

悔ひ改めて信ずるに當り何の利益を受くるや。

答 信仰によりて基督に結ばるるより、我らの罪惡彼がた

九

めに價値なくして赦され、我らの心新たにせらる。かくて我ら神の子となり基督と共に嗣子となる。

第二五 問 かくのごとく大なる恩寵に對し、我ら如何にして感謝の意を顯はすべきや。

答 我らの天父の意志を行ひ、且つ之を奉戴するに於て、基督の模範に倣ふとを力むるにあり。

第二六 問 神の意志を簡單に示されしもの何れにありや。

答 耶穌基督の説明せられし十誡にあり。

第二七 問 十誡を誦せよ。

答 汝吾が前に他の神を有すべからず。

二 なんぢのために偶像またうへは天、したは地、あるひは地のしたの水の中にある一切のものゝ像をつくるなかれ。此等にひれふし又つかふるなかれ。そはわれエホバあんぢの神はねたみの神にして、我をにくむものには父のつみを子三四代にいたるまで罰し、我をいつくしみわが律法をまもるものには千代にいたるまで恩惠をあたふればなり。

三 あんぢの神エホバの名をみだりにいふとあかれ。そはエホバはその名をみだりにいふものをつみなしとせざればなり。

四 安息日をわすれずしてこれを聖日とせよ。六日の

あひだははたらきて凡てあんぢの工とあすべし。

第七日はなんぢの神エホバのやすみなれば汝すべ

ての工をなすことあかれ。并びになんぢらの子、

女、僕、婢女、畜および門内にあるたびとをも

然せよ。そはエホバ六日のあひだ天と地と海とそ

の中にある一切の物をつくりて第七日にやすみ給

ひたればなり。このゆゑにエホバ安息日をいはひ

てこれを聖日とせり。

五 なんぢの父と母とをうやまへ。あんぢの神エホバ

のなんぢに賜ひたる地のうへにおいて汝のいのち
の長からんが爲なり。

六 殺すなかれ。

七 姦淫をれこなふなかれ。

八 盗むなかれ。

九 隣人について偽りの證據をたつるなかれ。

十 とかりびどの家をむさぼるなかれ。隣人の妻また

その僕、婢女、牛、驢馬および凡てとなりびどの

物をむさぼるなかれ。

第二八 問 我らの主はこの律法を如何に理會すべしと教へられし

や。

答 律法は心の願望、動機、及び意志にまで達するものなれば全心を擧げて神を愛し、己の如く隣人を愛するにあらずれば之を守り難しと教へられたり。

イ 問 第一誠は何を教ゆるや。

答 一の生ける眞の神を我らの神とし、専ら彼れにのみ寄すべき尊敬を盡す也。

ロ 問 第二誠は何を教ゆるや。

答 肖像其の他人の匠になれるすべての物を用ひず、唯神の自ら定めたる方法に従ひ靈と眞を以て之を拜することなり。

ハ 問 第三誠は何を教ゆるや。

答 神を瀆すことを行はず、又語らず常に嚴かに肅しみて神の聖なる御名を用ゆべきことなり。

ニ 問 第四誠は何を教ゆるや。

答 六日の間は我らの職務を勵むべし。然れども休息と禮拜のため一日を聖別せざるべからず。耶穌一週の初日に死者のなかより甦られし故、基督教徒は之を主の日と唱へて守るなり。

ホ 問 第五誠は何を教ゆるや。

答 神は其の父母を敬ひ之に従ふものを殊に喜ばる。

ヘ 問 第六誠は何を教ゆるや。

答 人命を貴ぶべし。我等の同胞は敵に至るまでも之を惡むことなく、又害することなく、其の健康と幸福とを保持せんがため力を盡すべし。

しとなり。

ト 問

第七誠は何を教ゆるや。

答

神の定められし婚姻の制を貴び、謹慎を保ち、思想、言語、舉動等に於て身を清潔に維持すべしと。

チ 問

第八誠は何を教ゆるや。

答

人を待遇するに正直、公平を旨とし、詐偽暴力等によりて他人の物を掠むべからず。

リ 問

第九誠は何を教ゆるや。

答

偽りの證言を爲すべからず、何人をも欺くべからず。他人の害となるべき風評を流布する勿れ。

又 問

第十誠は何を教ゆるや。

答 たまひ心の中のみにもせよ、他人の利達を猜み、彼の物を奪はんと欲するなどのことあるべからず。常に足ることを知りて神に感謝するの心を養ふべし。

第二九 問

我らを助けて従順の生活を修めしめんがため、神は如何なる方法を備へられしや。

答

神の言、祈禱、聖禮典、及び教會の交際。

第三〇 問

神の言は何れに録されあるや。

答 信仰及び義務の規矩として與へられたる神の示現をば聖靈の啓發に由りて録せしある聖書に於て。

第三一 問

祈禱とは何ぞや。

答 我等は祈禱に於て天の父と交はり、罪惡を告白し、其のすべての恩恵を感謝し、神の約束せられしすべてのものを耶穌の名に於て請ひ求むるあり。

第三二

問 主の祈禱を誦せよ

答 天に在ます我らの父よ聖名をあげさせたまへ、聖國をきたらせたまへ。聖旨の天にあるごとく地にも成せたまへ。われらの日用の食を今日もあたへたまへ。われらに罪ををかすものを我がゆるすごとく我儕のつみをも赦したまへ。われらを誘惑にはせず惡より救ひいだしたまへ。國と權威と榮光とは汝のかぎりなく有

ちたまふ所あり。アーメン

イ 問 聖名をあげさせ給へとは如何なるとぞ。

答 我らの天父がすべての人を導き耶穌の啓示せしところに従ひて神を認識し、且つ之を崇むるに至らしめんことを祈禱り、かくて其光榮ある讚美の何にも廣く行はれんことを求むるなり。

ロ 問 聖國を來らせ給へとは何を祈るとなるや。

答 福音が全世界に廣く布かれて力を得、惡の勢力破れて耶穌すべての心に王となり、人生すべての關係を主宰するに至らんことを祈るなり。

ハ 問 聖旨の天になるごとく地にもなさせ給へとは如何なることぞ。

答 すべての人導かれて神の聖旨を奉じ、喜んで其の要求するところを行ふに至り、斯くて神の恩深き目的の成し遂げられんことを祈るなり。

二 問 我らに日用の糧を今日も興へ給へどは何を頼ふなるや。

答 神我らの日々の勤勞を祝し、肉體に必要なるものを供給し、我らをして思ひ煩ふことなく、足るを知るに至らしめんことを祈るなり。

ホ 問 我らに罪惡を犯すものを我らが赦す如く我らの罪惡をも赦し給へといふ祈りを説明せよ。

答 我らは己が罪惡の赦されんとを神に祈りて疑ふべからず。然れども我らに害を加へたるものを心より赦すこと自らになくば神も我らの罪を赦さざるべし。是れ基督のここに教へられしところなり。

ハ 問 我らを試にあはせず惡より救ひ出し給へこの終りの祈りには何を求めらるや。

答 我らが謙遜を學ばんがために、猛烈なる試に遇ふの必要なからん

ことを求め、又すべて靈なる敵の勢力より庇護られんことを祈る。

第三三 問 聖ある公同教會とは何ぞや。

答 是れ基督耶穌に於ける信者の聖なる社會あり。基督之を創立して、其の唯一の首たり。彼は聖靈によりてそのうちに住む。故に多くの團體より成り立ち、その組織の形狀を異にして全世界に散布するもなほ基督に於て一なるものとす。

第三四 問 我らの主は如何なる目的のために其の教を設けられたるや。

答 基督は其の民が神を禮拜し、その言を宣傳し、聖禮典

を奉事せんため、且つ相互に徳を建て、戒規を行ひ、その王國を擴張せんがために、これを目に見るべき兄弟の団体に組織せしなり。

第三五 問

公同教會の眞の枝たるに欠べからざる資格は何ぞや。

答

公同教會の眞の支たるに欠くべからざる資格は、基督が其の内住の靈によつてそのうちに現在するとなり。基督かくの如く現在するは聖ある生活と親交とに於て顯彰る。

第三六 問

自由教會とは何ぞや。

答

耶穌基督のはか何ものをも首と認めず、國家の抑壓、

第三七 問

干渉なくして基督の律法を解釋し之を施行するの權利を實行する教會是なり。

答

基督敎の敎役者は神の言の敎師、基督の群羊の牧師たらんために神と教會とより招かれたるものなり。

第三八 問

かくのごとき敎職の正當あることは如何にして證明せらるるや。

答

正當ある敎職の確證は教會の首たる基督の批准なり。この批准は罪人を悔改に導き、基督の體たる教會の徳を建つるの結果に於て顯はる。

第三九 問

教會の聖禮典とは何ぞや。

答

我らの主耶穌が、その約束せる恩寵を確認せしめ、且つ之を正しく用ゆればこの恩寵を我らの心に傳ふべき手段たらしめんとて目に見ゆる記號を以て、目に見えざる福音の靈なる利益を明示せんために設けられし神聖なる禮式なり。

第四〇 問

聖禮典は幾何ありや。

答

唯二つ。バプテスマと主の晩餐是れあり。

第四一 問

バプテスマの聖禮典に於ける目に見ゆる記號は何ぞや。

答

水あり。父と子と聖靈の名に於て水を以てバプテスマを受く。

第四二 問

こは目に見えざる如何なる利益を顯はすや。

答

罪惡の洗ひ去られたること及びすべて悔ひ改めて信ずるものうちに聖靈の成就せる新らしき誕生を明示するなり。

第四三 問

主の晩餐に於ける外部の記號は何ぞや。

答

麵麩及び葡萄酒。是れ主が永くその死を紀念せんがため授受すべしと命せられしものなり。

第四四 問

麵麩と葡萄酒は何を顯はすや。

答 麵麩は我らの主耶穌基督の生きて死にたる肉体を表す。葡萄酒は罪惡の赦すのためとて、萬民のため十字架の上に會て流されし血を表示す。

第四五 問 痛悔と信仰とを以てこの聖禮典に與かるものは何を受くるや。

答 彼らは靈魂の滋養として基督を靈的に食す。之によりて彼らは人生の職務と試練とに對して力を添へられ精神を新たにせらる。

第四六 問 何故に基督教徒は共に主の晚餐に與かるや。

答 基督に於て彼らの一あるとを顯はし、公然彼れに於け

る信仰と告白し、互に兄弟的愛情の誓約を交換せんがためあり。

第四七 問 此の世にありて基督教徒の首ある安慰は何ぞや。

答 基督に連かりて神の所屬たるとなり。神はすべてのものを一て彼を愛するものために活用さて益をなさしむ。

第四八 問 我ら死にのぞみて何の望みありや。

答 基督に在りて眠れるものは皆な之と共に休みと平和のうちにあり。主が死者のうちより起ちし如く我らも亦甦り光榮ある身軀を以て裝はるべしと確信する是れな

り。

第四九 問 耶穌はその再臨につきて何を語られしや。

答 唯神にのみ知られたるとき、彼は權能を以て再び現はれて、其の聖徒に於て光榮を享け、萬民の審判者たらしんとす。我らは常に準備をなして、其の現はるゝを待つべし。

第五〇 問 來世に關する基督教徒の希望は何ぞや。

答 我らはすべて基督によりて救はれしものが神を見、且つ世の創立よりこれがために備へられたる王國を承け續ぐる限りならん生命を待ち望む。

明治三十二年九月五日印刷
明治三十二年九月五日發行



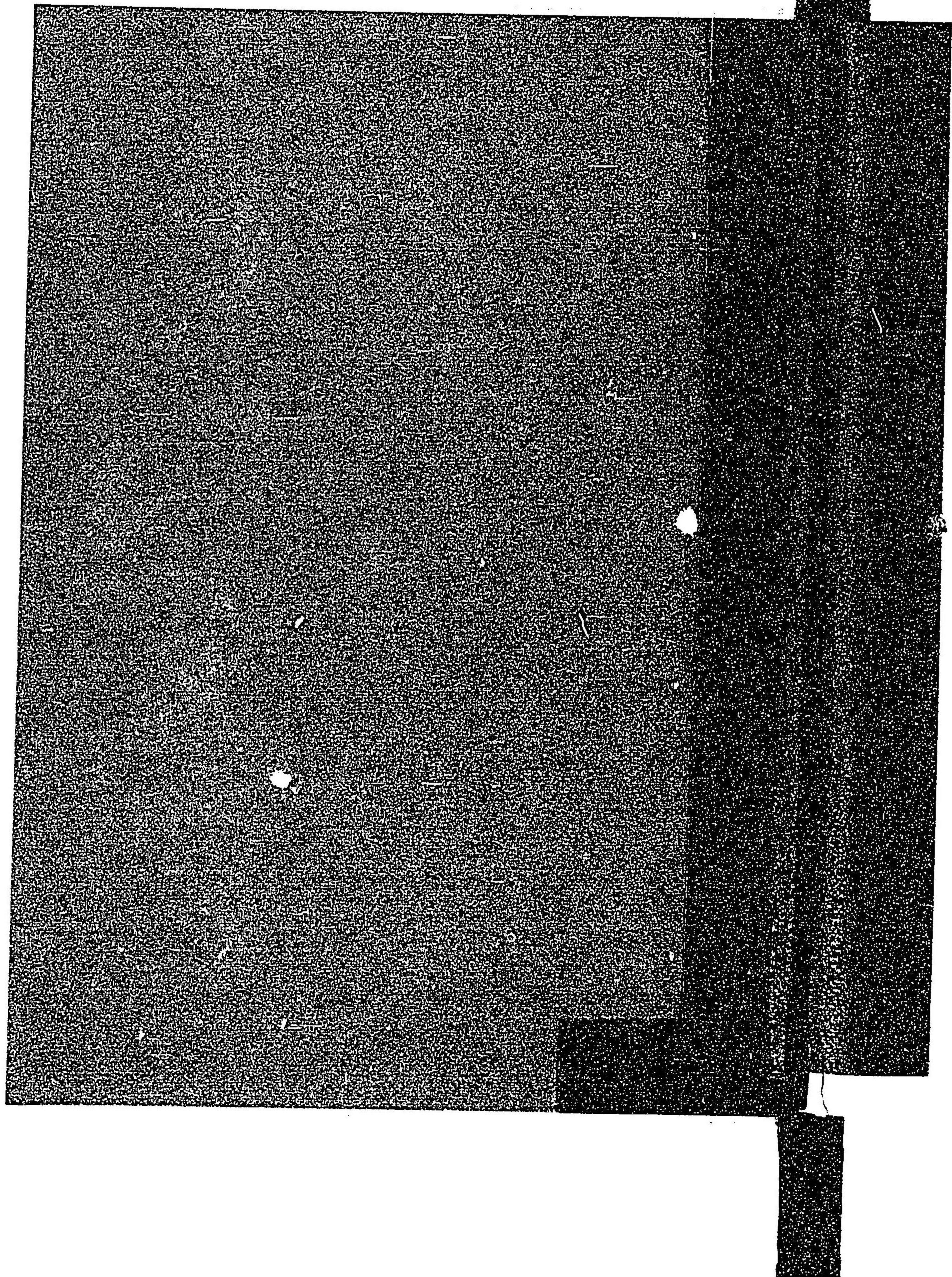
發行人 堀田達治
東京市京橋區銀座四丁目二番地

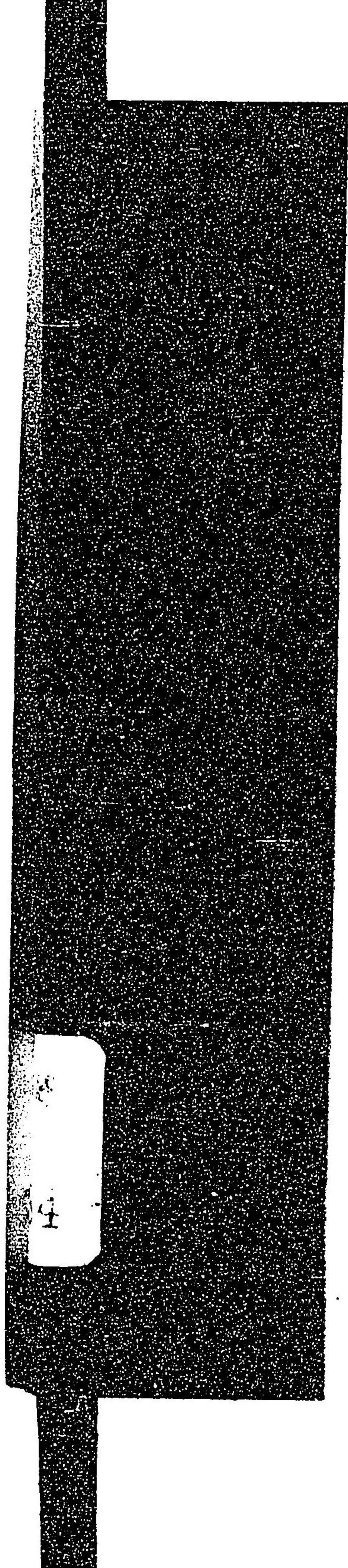
印刷人 山崎久吉
東京府下豊多摩郡澁谷村
字上澁谷一番地

發行所 教文館
東京市京橋區銀座四丁目二番地

印刷所 青山學院實業部
東京府下豊多摩郡澁谷村
元青山南町七丁目一番地

R-1





4